

榎峠トンネル化へ力を込める
谷復興副大臣



谷復興副大臣
も力込める

シンポジウムには、丹波市を含む兵庫5区選出の衆議院議員、谷公一・復興副大臣が駆け付けた。

谷副大臣は「震災被災地に何度も入り、道路がいかに命を守る大切なものなのかを痛感した」と切り出し、榎峠トンネル化について「あと10年もすれば、社会資本整備は維持補修の予算付けが多くなる。あの時やっておけばといっても遅く、今頑張らなければいけない」と訴えた。京都、

兵庫両知事にも事あるごとに必要性を伝えていることを報告し「私も精いっぱいやらせていただきたい」と力を込めた。

京都5区選出の衆議院議員、谷垣禎一法務大臣も「生活路線、防災面でも極めて重要な道路。トンネル化はみなさんの悲願で、私も協力して全力を尽くしたい」とのメッセージを寄せた。

開会、閉会のあいさつで松山福知山市長、辻重五郎丹波市長もトンネル化早期着工を切望した。

都市・地域計画などを専門にする京都府立

大学の宗田好史教授が「生命を結ぶ道をつくる―生活圏再編成に向けて」の題で基調講演したほか、福知山、丹波両市民の意見交換会があり、出席者全員で国道429号の改修促進へ一丸となった。



普通車の離合が難しい榎峠